

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
すてつあっぱ emishia		令和 8 年 6 月 30 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	90%	10%	人数が多い日などは、違う遊びに誘導するなどしている。声掛けで遊ぶ場所、活動場所を分けている。	動きの多い遊びが好きな児童が多いことから10名程度が妥当と考えます。部屋で隔てることができないので指示が入らなかったりすることがある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		加配などで対応している。支援者が休みの日には別施設の職員等を配置してもらいなるべく足りるようにしている。	クールダウン室を使用している際などに、支援者が室内に一時的に不足することなどがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		適時改善し提供している。	トイレの階段部分など工夫を要する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		日々、消毒や清掃を行っている。	食べこぼしなどが多いが、掃除機の音に過敏に反応してしまう児童がいることから清潔を保ちにくい場面がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	80%	20%	自由活動をする児童、個別学習の児童と色分けした空間で視覚的に環境設定を行っている。	個別学習や宿題をしている児童にボールがぶつかってしまうなど集中して取り組みにくい環境になってしまっている。部屋として分かれていないので集中してできる環境かと言われればそうではない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		社内研修などを通じて共有して参画している。	週休者や早い時間の送迎があると参加できない職員ができてしまい、目標の共有などが難しいことがある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		評価表を基に振り返りを行っている。	ハード・ソフト面での対応が難しいことがある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		適時面談などを通じて意見の集約を行い、業務改善に繋げている。	不定期になりやすいので定期的な面談を実施できると良いと思う。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		評価表を基に振り返りを行っている。	PDCAサイクルをしっかりと回していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		定期的に研修や、地域で行っている研修会に参加するなどしている。	日程が合わず参加しにくいことがある。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		実施している。	連絡帳や送迎時、SNSなどを利用し積極的に発信している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		定期的なモニタリングやアセスメントを行い計画作成を行っている。	PDCAサイクルをしっかりと回していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		意見取りまとめなどを通じて共通理解の醸成に努めている。	PDCAサイクルをしっかりと回していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		更新の際など定期的に共有を行っている。	PDCAサイクルをしっかりと回していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		実施している。	PDCAサイクルをしっかりと回していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	80%	20%	子やご家族の意向を丁寧に踏まえながら特性等を鑑みた上で適切に設定されている。	地域支援や移行、連携については今後検討していく必要がある。 地域支援等はしている様子がない。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		主担当を中心に立案している。	プログラムが偏らないようにしすぎるがあまり、新しい物が多くなりすぎないよう定期的に実施するようにしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		日々重ならないように週ごとの領域テーマに基づいて検討している。	プログラムが偏らないようにしすぎるがあまり、新しい物が多くなりすぎないよう定期的に実施するようにしていき定着を促す。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		計画に基づいて組み合わせて行なっている。	集団活動が時間的な都合で参加できない生徒があり、個別に偏ってしまっている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		療育提供前のミーティングで子に応じた目標設定などを行っている。	想定が甘いことや、その日の子の状態によるところが大きいため来所してからの様子で急遽の変更を要することがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		適時実施している。	長期休業期間中など共有しにくい時間があるため、工夫を要する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		定着度合いや検証に使用し、改善につなげている。	PDCAサイクルをしっかりと回していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		適時実施し適切に改善につなげている。	PDCAサイクルをしっかりと回していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%		適時確認し実施している。	PDCAサイクルをしっかりと回していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		買物体験やおやつ選択など自身で選択できる場面を設定している。	自己選択や意思の表出が難しい児童もいたため適時改善を要する。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児童発達支援管理責任者を中心に参画している。	会議等で出た内容を適時共有してもらい改善などに活かしている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		適切に行っている。	関係機関先の都合もあるため開催スパンが長くなりやすく子の実態に即時に反映しにくい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		送迎時などを利用して密に行っている。	複数回確認の連絡をするなどしても共有していただけないご家庭も複数あり急遽の対応になることがある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		担当者会議などの際に情報共有などを積極的に行っている。	相互理解に努め、より良質な療育の提供に努める
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		適時行っている。	頻回でなく、昨年度も要する児童もいなかったため今後検討する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%		適切に連携を図り共有し、適時改善につなげている。	PDCAサイクルをしっかりと回していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	20%	80%	伝染病などの流行があったことから行っていない。	今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10%	90%	開催日程などの都合が合うものに関しては参加している。	今後検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		送迎時などにその日の様子についての共有を行い、次回の療育につなげられるよう努めている。	学童への送迎対応となる児童もあり、急を要するものはLINEで共有している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	20%	80%	面談などの機会を通じて適時情報共有を行っている。	今後開催を検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		重要事項説明の機会などに説明させていただき、その後も不明点や不安な点については適時説明させていただいている。	ご説明させていただく際に誤解を招くことの無いよう、職員間でも随時確認し共通認識を持つ。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		面談の際に丁寧にヒアリングをおこなっている。	面談時以外にも送迎時などのヒアリングの時間を持つなどし適時確認し改善につなげている。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		説明させていただきご理解をいただいた上で同意いただいている。	内容がわかりにくいなどがあった際には適時ご説明させていただいている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		送迎時などを通じて適時行っている。	送迎スケジュールなどの都合で短時間になってしまう。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	10%	90%	感染症の流行や就業されている保護者様も多いことから開催できていない。	今後検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		相談窓口と担当者を選任し対応できるようにしている。	苦情があった際に即時共有されている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		SNSを活用して日々の様子を発信している。	閲覧数が多くないため今後も積極的に広報し、発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		個人情報保護法の趣旨を理解し適切な取り扱いを行っている。	机上の整理やスクリーンセーバーの適正利用、普段の職員間の会話の中に個人を特定できるものが無いかなど意識的にチェックしていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		発語のない児童については特にその際の表情やボディランゲージなど様子や状態を細かくお伝えしている。	今後も適時工夫・改善していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10%	90%	感染症の流行などもあり実施できていない。	今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		各委員会などでマニュアルなどの共有を行い、訓練などを行いその様子など取り組みを保護者様にも共有している。	訓練などを通じて出た問題点などを適時改善している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		定期的に訓練などを実施している。	訓練などを通じて出た問題点などを適時改善している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		契約時にご記入いただいた既往歴などを確認させていただき、外食活動の選定時に既往歴を確認しながら場所などの検討をしている。	服薬指導などを希望される保護者様には医療行為とならない範囲での提供になることをご説明
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		現状個別に対応を要する生徒はいないため指示書の提示を受けていない。	今後必要になった際には指示書の提示を受けて適切に対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		定期的に職員参加の避難訓練の実施などを行っている。	現状対象はいないが今後に備えてエビベンの効果的な使用法などの研修が必要に感じている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		重要事項説明の機会などに説明させていただき、その後も不明点や不安点については適時説明させていただいている。	有事の際に連絡先が変わっていたり、繋がらない事があるため定期的に連絡先について確認をさせていただく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		全職員間で発生内容を共有し、事業所ごとに振り返りを行っている。	職員配置や活動内容などにより反映できるように検討を要する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		定期的な研修を通じて虐待防止に努めている。	研修内容が同じようなものにならないように工夫している。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%		組織的に検討し決定した内容で承諾書を作成し保護者様に丁寧に説明させていただいている。	やむを得ない事情について研修を通じて職員によって差が出ないよう共通理解を醸成する。